

新日本新聞

版 三 十 二

No. 594

40.6. 4

死者 236人

一、また炭鉱で大惨事

— 山野炭鉱ガス爆発 —

一日午後、福岡県の山野炭鉱でガス爆発が起り、坑内に一酸化炭素が充満、入坑していた五百五十二人のうち、二百三十六人が死亡、重軽傷者三十八人を出し、戦後の炭鉱爆発としては、三井三池の炭じん爆発につぐ大惨事となった。

山野炭鉱は三十八年三井鉱山とわかれ、第二会社となって以来驚異的な出炭量を誇り業界の注目をあびていた。しかしガスゆう出量が多く、ガス爆発の危険度が高いとして要注意鉱に指定されていた。炭鉱経営者は苦しい経営をつづけるあまり、口では「保安第一」をさげびながらも、実は人命軽視の生産第一主義をとってきたこともいふまでもない。

炭鉱の爆発による災害は、ことしにはいつてから北炭、夕張、日炭、伊王島と相つぎ、政府も保安対策につとめていたときだけに「人災」に対する怒の声は強くわきおこっている。

一、快速キーストン勝つ

— 第三十二回日本ダービー —

480

小雨降りしきる五月三十日。優駿22頭が日本一の覇権をかける第32回日本ダービーは東京府中競馬場に大観衆を集めています。

年間生産一千頭を数えるサラブレッド。この日の為に鍛えられ、百戦錬磨の末、淘汰されて今年は22頭にしぼられたのです。

決戦の時を迎えたダイコクター。勝負鉄も打ち調教師と馬丁さんに必勝を祈られて厩舎を出発。なみ入る強敵と共に装鞍。調教師と騎手の最後の打合せも成って、いよいよ本馬場へ……。

二千四百メートルの長馬場はぬかり道。逃げのキーストンは、好ワク。大観衆が見守るうちにスタート。安定キーストンが先行。向う正面をダイコクター、ゴールデンパスら人気馬が一丸となつてコーナーをまわります。各馬にムチが入りますが冴える快速キーストンの逃げ足。

キーストンをとらえんと急追。だが悪馬場の為か、1馬身強で2着。こうして、第32回日本ダービーの栄冠は山本正司騎乗の快速キーストン号の頭上に輝いたのである。

145

625 Feet

制作・配給

新 映 画 新 日 本 新 聞 東 京 中 日 新 聞 東 京 中 日 新 聞